

獨蜂

爲ス蜂アリ、形大黃蜂ノ如シ、
〔和漢三才圖會五十二〕赤翅蜂〇中

獨蜂 作窠於木、其窠大如鷲卵、皮厚蒼黃色、只有一箇蜂、人馬被螫立亡也。

蝮蜂 在寒鼻蛇穴內、其毒倍常、中人手腦卽圯裂、非方藥可療、惟禁術可制。

蠟蟪

〔新撰字鏡虫〕蟬餘章反、平、蟬、蟬、螿舒亦反、佐須、
〔倭名類聚抄虫十九〕蠟蟪悅翁二音、和、似蜂而細腰者也、兼名苑云、一名螺羸果裸、

〔箋注倭名類聚抄虫八〕新撰字鏡、蟬螿、蟻、蝗、皆訓佐曾利、古謂之須賀流、雄略紀、有人名螺羸、本注

此云須我屢、萬葉集云、腰細之須輕娘子、飛翔爲輕、如來腰細丹、皆是也、今俗呼似我蜂、常陸謂之加

會利、蓋佐曾利之轉譌也、所引蓋舊注也、爾雅果羸蒲盧、郭注云、卽細腰蠶也、俗呼爲蠟蟪〇中、太平

御覽引陸機云、螟蛉者、桑上小青蟲也、似步屈、其色青而細小、或有草葉上螺羸、土蜂也、似蜂而小腰

取、桑蟲負之於木、空中筆筒中、七日而化爲其子、里語曰、祝云、象我象我也、法言學行篇、作類我類我、

久則肖之、是陸機所本〇中、按本草和名云、蠟蟪、一名土蜂、一名螺羸、一名細腰、一名蛞蝓、一名蒲蘆

已上三名出兼名苑、據證類本草、一名土蜂、本條文、一名螺羸、陶注文、一名細腰、以下出兼名苑、蓋兼

名苑亦有螺羸之名、而以本草已載其名、輔仁不引及之、源君此不引本草、依兼名苑舉此名、歟、抑以

本草和名土蜂螺羸、並失載出典、源君誤爲五名皆出兼名苑、亦未可知也、

〔類聚名義抄虫十〕蠟蟪サソリ

〔下學集上〕形似我ガ於毛詩、螟蛉有子、螺羸負之、朝野僉美云、蜂啣他虫、置、
〔倭訓栞前編十二〕須〇中、
日本紀に螺羸を訓せり、細腰蜂也、よて萬葉集に、腰細のすがる娘

子とよめり、俗語にすがるといふ是也、古今集に、すがる鳴秋の萩原とよめるは此虫也、後人鹿

となしてよむもの多し、謬なりといへり、倭名鈔にはさそりと訓せり、さ、りばちともいふ、常陸

となしてよむもの多し、謬なりといへり、倭名鈔にはさそりと訓せり、さ、りばちともいふ、常陸